

InstallShield X Express

2004 年 6 月 29 日

はじめに

InstallShield Express Edition は、一般的なプロジェクト向けに生産性に優れた使いやすいインストール オールインワン環境を提供します。InstallShield X Express Edition は生産性を高める多数のウィザード、タスクベースビューの数々、および 70 以上のサードパーティ技術用のビルトインサポートを含み、チェックリストとなったインターフェイスを通してステップバイステップ形式でユーザーを案内します。スクリプトは必要ありません。InstallShield X Express Edition を利用すると、特殊なトレーニング無しに短時間でインストーラーを完成させることができます。Express は従来の IDE を使って、または Visual Studio .NET インターフェイスに完全に統合して実行することができます。InstallShield X Express Edition は Windows モバイルデバイス インストールを完全サポートします。

InstallShield X Express Edition はまた、UNIX および Linux プラットフォーム用のセットアップを作成するためのツールを含む最初の Express 製品です。新しく追加された Universal プロジェクトタイプを利用して、Express セットアップ開発者は最も一般的な UNIX だけでなく Red Hat、SuSE、およびその他の Linux 配布用のスケラブルで拡張性の高いインストールを作成することが可能です。Universal IDE は完全に Java で書かれているので、Express セットアップ開発者はこれらのプラットフォームを利用して開発することも可能です。

[トップに戻る](#)

システム要件

Windows の場合:

プロセッサ

Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)

RAM

256 MB の RAM (512 MB 推奨)

ハードディスク

500 MB ディスク空き容量 (再配布可能ファイルコードを含む)

表示

1024 x 768 (XGA) 以上の解像度

オペレーティング システム

Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0 (SP6)、Windows 2000、Windows XP または Windows Server 2003

ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 5.01 (IE 5.5 以降を推奨)

権限

システム上での管理者権限

マウス

Microsoft IntelliMouse またはその他の互換性のあるポインティング デバイス

Linux、UNIX、Mac、OS/400 の場合:

プロセッサ

400 MHz のプロセッサ

RAM

128 MB の RAM

ハードディスク

150 MB のハードディスク空き容量

サポートするプラットフォーム

Linux および UNIX。Universal IDE に必要な JRE/JDK バージョン 1.4.2 以降と共にサポートされています。Universal Installer ランタイム用には JRE バージョン 1.2.2 以降がサポートされています。

[トップに戻る](#)

参考情報

InstallShield X リリースではスキーマが修正されています。既存プロジェクトは、InstallShield X で開いた時に新しいスキーマにアップグレードされます。

[トップに戻る](#)

新機能

Windows ベースの開発者にとって新しい機能

Linux および UNIX サポート

新しい Universal Installer プロジェクトタイプを利用すると、完全に Java で書かれた専用のポイント アンド クリック インターフェイスを使って、Linux および UNIX 上で実行可能なインストールを簡単に作成することができます。プログラムを配布するのに tar ファイルや shell スクリプトでは対応しきれず、業界標準のさらにパワフルなツールが必要な場合、この使いやすいデザイン環境をお勧めします。

常に上書きする

インストール時にバージョンや更新日に関わらず特定のファイルを常に上書きするよう、簡単に指定することができます。

Compact プロジェクトタイプ

インターネットを通してダウンロードするインストール場合、新しい Compact プロジェクトタイプと共に含まれている Compact Installer エンジンを使って、どのインストールエンジンよりもオーバーヘッドが小さい (100 KB 以下) インストールを素早く配布することができます。

新しいアップデートをユーザーに通知する

エンドユーザーがアプリケーションをインストールした後に、直接コミュニケーションをとることができます。統合された Update Service Starter Edition はユーザーが常に製品の最新リリースを利用できるよう、新しいアップデートおよびパッチが利用可能であることを通知します。たった数回クリックするだけで、この機能をアプリケーションに組み込むことができます。

強化された IIS Web Service サポート

容易に Web サービスを配布するための新しいインストール プロジェクトを作成したり、Web サービス を既存のプロジェクトに追加することができます。InstallShield X の [インターネット インフォメーションサービス (IIS)] 専用ビューを利用して、新しい Web サイトの作成および仮想ルートの構成など、IIS のすべての側面を構成することができます。デフォルト エラーメッセージの代わりに独自のカスタム HTTP エラーメッセージを利用するよう、インストールが IIS の構成を行なうように設定することも可能です。

強化された [カスタムアクション] ビュー

改良された [カスタムアクション] ビューを利用してカスタムアクションを簡単にドラッグ アンド ドロップで追加または再編成することができるのは InstallShield X Express Edition だけです。このビューの [カスタムアクション] エクスプローラには、セットアップに含まれる各ダイアログおよびイベントのノードが含まれています。ノードはインストールまたはアンインストール中に発生するタイミング順にリストされています。プロジェクトにカスタムアクションを追加する場合、適切なインストールまたはアンインストール ノードにアクションを追加して、カスタムアクションがいつ起動するかを指定します。

強化された [再配布可能ファイル] ビュー

デザインが改良された [再配布可能ファイル] ビューを使うと、これまで以上に簡単に 70 以上の再配布可能技術をインストールへ追加することができます。このビューにあるマージモジュールおよびオブジェクトのチェックボックス リストは、各再配布可能ファイルの名前、バージョン、およびタイプを表示します。また再配布可能ファイルをインターネットから利用中のコンピュータへダウンロードする必要があるかどうかを指定する列も含まれます。さらに、マージモジュールおよびオブジェクト リストの上にあるリストボックスでは、どのタイプの再配布可能ファイル (すべてのタイプ、マージモジュール、またはオブジェクト) をこのビューに表示するかを指定することができます。

[ファイル] ビューでオプションの検索

多数のフォルダとファイルをプロジェクトに追加したとき、特定のフォルダまたはファイルの検索に手間が掛かることがあります。[ファイル] ビューを使って、ファイルおよびフォルダを簡単に検索することができます。

クロスプラットフォーム開発者にとって新しい機能

Linux および UNIX サポート

新規 Universal Installer プロジェクトタイプを利用すると、完全に Java で書かれた専用のポイント アンド クリック インターフェイスを使って、Linux および UNIX 上で実行可能なインストールを簡単に作成することができます。プログラムを配布するのに tar ファイルや shell スクリプトでは対応しきれず、業界標準のさらにパワフルなツールが必要な場合、この使いやすいデザイン環境をお勧めします。

プロジェクト アシスタント

プロジェクトアシスタントにはインストールプロセスを簡単に案内するシンプルなビューがあり、これを使って Universal Installer プロジェクトを容易に開始することができます。これらのビューにアクセスする順番は決まっておらず、いくつかの手順に従うだけでインストールが作成されます。プロジェクトアシスタントを利用して一連の質問に答えると、素早く確実にインストールプロジェクトを設計および実装することができます。

新しいアップデートをユーザーに通知する

エンドユーザーがアプリケーションをインストールした後に、直接コミュニケーションをとることができます。統合された Update Service Starter Edition はユーザーが常に製品の最新リリースを利用できるよう、新しいアップデートおよびパッチが利用可能であることを通知します。たった数回クリックするだけで、この機能をアプリケーションに組み込むことができます。

Web アプレット配布

Web サイトを通して製品を配布するアプレット配布物を作成します。これを使ってエンドユーザーはインターネット接続を利用して製品をインストールすることができます。

ネイティブ プラットフォーム インストールランチャ

Universal Installer プロジェクトは、各ターゲットプラットフォーム用のネイティブ ランチャ自動作成を完全サポートします。

ネイティブ UNIX インストール ランチャ

Universal Installer プロジェクトは、ネイティブ UNIX ランチャ スクリプトの自動作成を完全にサポートしており、顧客の個別のニーズに応えることができるようにカスタマイズすることも可能です。InstallShield X Express

Edition により、ランチャ実行前に新規の JVM をインストールする、または既存の JVM を活用するためのシェルベースのインストール プロシージャの開始が簡単になりました。

JVM の完全コントロール

JVM をターゲットシステム上で検索する、またはユーザー自身の JVM を明示的に示すどちらの方法を選択した場合も、製品の実行に使用される JVM を簡単にコントロールすることができます。

One-Click Java サポート

マウスをクリックするだけで JVM またはネイティブ UNIX ランチャをインストールの一部として含むことができます。これによって Java の知識を持たないユーザーでもアプリケーションを無事にインストールすることが可能となります。

特定のプラットフォーム用ショートカットの作成

オペレーティングシステムに関わらずユーザーがアプリケーションを素早く実行することができるよう、ターゲットにする各プラットフォームに個別のショートカットを作成します。

Web を通したアプリケーションの配布

InstallShield X Express Edition で作成されたインストールは、マウスをクリックするだけでインターネットから簡単にダウンロードすることが可能で、インストール作成者にとってもエンドユーザーにとっても製品の配布が容易になります。

サイレントインストールおよびアンインストールの作成

アプリケーションのインストールおよびアンインストール時にユーザーとの対話が必要ない場合、InstallShield X Express Edition を利用するとユーザーインターフェイスを利用しないインストールおよびアンインストールルーチンを簡単に作成することができます。

Swing Installer のビルド

InstallShield X Express Edition には、インストーラに Java Swing 利用するオプションがあります。これを利用してブランドに相応しいより洗練された外観を持つインターフェイスを利用することができます。

インストールの UI にグラフィックを含める

InstallShield X Express Edition には、インストールのユーザーインターフェイスの一部として含めることが可能なイメージおよびグラフィックのライブラリが含まれます。

30 言語から 1つの言語を使ってテキストを追加する

エンドユーザーが英語を話せなくても、問題ありません。InstallShield X Express Edition では、すべてのインストールに利用可能な 30 言語から 1つの言語で書かれたテキストを選択することができます。

コマンドラインからインストールをビルドする

インターフェイスを開くことなく、コマンドラインからインストールプロパティを変更およびビルドプロセスを開始することで時間を節約します。

複数ビルド構成

特定のプラットフォームやメディアをターゲットとする同じインストールプロジェクト内に、複数ビルド "プロファイル" を簡単に作成します。インストールを一度定義するだけで InstallShield X Express Edition が複数の方法でビルドを行ないます。

シンプルなアップグレードの作成

エンドユーザーによるアプリケーション全体のアンインストールおよび再インストールの必要がなく、インストール済みのファイルを自動的に置換する安定したアップデートを素早くビルドします。

問題を素早く診断および修復する

ネイティブ システムイベント ログ記録を使って、InstallShield X Express Edition は各問題を診断するために必

要なエラー情報を提供し、必要なデバッグを行ないます。

モバイル デバイス アプリケーション開発者にとって新しい機能

[モバイルデバイス] ビュー

デスクトップコンポーネントをモバイルデバイス コンポーネントと共にインストールする場合、新しい [モバイルデバイス] ビューを利用します。このビューを利用してプロジェクトにモバイルデバイス インストールを追加すると、InstallShield X は自動的に対応するコンポーネントを作成し、モバイルデバイス アプリケーションに関連付けるよう選択したすべての機能にそのコンポーネントを追加します。

Express の以前のバージョンでは、このタイプのインストールを作成するとき [再配布可能ファイル] ビューを通して Windows CE オブジェクトをプロジェクトに追加しました。[再配布可能ファイル] ビューでこのオブジェクトは利用できなくなっています。Windows CE オブジェクトを持つプロジェクトを InstallShield X にアップグレードする場合、Windows CE オブジェクトは [モバイルデバイス] ビューのノードに変換または挿入されます。

Palm OS サポート

InstallShield X では、一般的な Palm OS を実行するモバイルデバイス用のインストールを作成することができます。インストールを簡単に拡張して Palm ハンドヘルド、Sony CLIE、および Handspring をターゲットにします。

Microsoft SmartPhone サポート

Smartphone 2003 をはじめとする Microsoft Smartphone のすべてのバージョン用のインストールを作成することができます。

[トップに戻る](#)

バグ修正 2004 年 6 月 29 日

1-J1CLX

IDS_IsExitDialog_InstallSuccess 文字列が [テキストとメッセージ] ビューに追加されました。この文字列は [セットアップが正常に終了しました] ダイアログの TextLine2 コントロールで表示されます。

1-GGMIX

One-Click Install インストールの Web ページは、インストールが起動したあと自動的に閉じることがなくなりました。インストール完了後にメッセージボックスが表示され、エンドユーザーに Web ページを閉じるかどうかを問い合わせます。[はい] を選択すると Web ページが閉じます。

1-GLJ58

以前は、プロジェクトをビルドしたときに (1) Microsoft Jet Database Engine 4.0 マージモジュールをプロジェクトに追加した場合、および (2) このマージモジュールがマシンにインストールされていない場合、InstallShield Express がクラッシュしましたが、InstallShield がこの状況でクラッシュすることはなくなりました。

1-H23SE

[プロジェクトアシスタント] を通して .exe ファイルをプロジェクトに追加した場合、InstallShield は [プログラム] メニューに自動的にそのファイルのショートカットを作成します。ショートカットを含むフォルダの名前を変更する場合、[ショートカット/フォルダ] ビューを利用します。これまでは [ショートカット/フォルダ] ビューで名前が変更された場合でも、フォルダにはデフォルト名が使用されました。

1-H9MYP

[ライブ再配布可能ファイルギャラリー] からダウンロード可能な MSDE 2000 マージモジュールファイルの中には、英語ファイルではなく日本語ファイルが含まれてる場合があります。この問題は、解決されました。

1-H9MYV

カスタムアクションの Invoke プロパティを変更すると InstallShield Express がクラッシュする場合があります。

た。この問題は、修正されました。

1-HI7CH

プロジェクトに新規機能を追加してから [常にインストール] 機能を削除しようとする、アクセス違反エラーが発生しました。この問題は、修正されました。

1-HNF01

[一般情報] ビューの [作成者] および [パブリッシャ] プロパティに異なる値を利用し、[プロジェクトアシスタント] の [アプリケーション情報] ページで会社名の値を変更した場合、[アプリケーション情報] ページの会社名の値に対応するよう、[作成者] プロパティの値が変更されます。これはデザインの関係上、[アプリケーション情報] ページが [作成者] および [パブリッシャ] プロパティを同じ文字列 (会社名として入力したもの) で設定するためです。[一般情報] ビューに戻って名前を個別に変更することができますが、[プロジェクトアシスタント] の [アプリケーション情報] ページに戻ると問題が再び発生します。

1-HVNW, 1-9HA4B

プロジェクトに複数のビルボードを追加してビルボード順を変更すると、新しい順序が保持されませんでした。この問題は、修正されました。

1-AMZDJ

[再配布可能ファイル] ビューでオブジェクトおよびマージモジュールを確認するとき、特定の再配布可能ファイルをサポートするファイルに必要なディスク空き容量を確認することができます。[再配布可能ファイル] ビューでファイルサイズを確認するには、マージモジュールまたはオブジェクトをクリックします。[再配布可能ファイル] ビューの右側にあるペインに合計ファイルサイズが表示されます。

1-JH7LH, 1-DJZIM

[リリースのビルド] ビューにある [One-Click Install の生成] プロパティが [いいえ] に設定されている状態で Web 配布リリースをビルドすると、リリースからイメージファイルの 1 つが欠落していました。従って、インストールを実行したとき saving_running.htm ファイルで表示されるイメージの 1 つが不足していました。この問題は、修正されました。

1-JHQF9

以前のインストールと共にインストールされされた製品に QuickPatch を適用すると、オリジナルインストールプロジェクトの [ファイル拡張子] ビューに作成されたファイルの関連付けが削除される場合があります。この問題は、修正されました。

1-54DSZ

インストールを 2 回目に行い、[変更] オプションを選択すると、最後の 2 つのエンドユーザーダイアログ ([セットアップ 進行状況] および [セットアップが正常に終了しました]) にテキストが表示されませんでした。[変更] オプションの代わりに [修正] オプションを選択すると、[修復準備完了] ダイアログで [セットアップタイプ] の説明が表示されませんでした。これらの問題は修正されました。

1-E40I2

Crystal Reports 8 オブジェクトおよび 8.5 オブジェクトには古い .dll ファイルが含まれているため、[再配布可能ファイル] ビューには Crystal Reports 8.5 SP1 オブジェクトが追加されました。このオブジェクトは最新ファイルを含みます。

1-L9PCT

ビルド警告 -6495 は削除されました。詳細はナレッジベース記事 [Q110208 ERRDOC: ビルド警告 -6495](#) をご覧ください。

1-BX4AX, 1-AOVI5

エンドユーザーダイアログの左下角に表示される "InstallShield" について、[一般情報] ビューの [デフォルトフォント] プロパティが大きなフォントに変更された場合、この単語の一部が表示されない場合があります。こ

の問題を解決するため、"InstallShield" という単語に関して [デフォルトフォント] プロパティが利用されなくなりました。

1-CVLYY

アンインストール中の製品が現在実行中の場合、サイレント インストール中にテキストなしのエラーメッセージボックスが表示されました。エラーメッセージボックスには適切なテキストが含まれています。

1-JORXS

パッチおよびアップグレードについての次のトピックがヘルプライブラリに追加されました。"アップグレードとパッチ"、"Windows Installer とパッチ"、"既存の QuickPatch をパッチする QuickPatch プロジェクトの作成"、および "QuickPatch をパッチする QuickPatch"。

1-L93AD, 1-MMETT

InstallShield ヘルプライブラリ内のハイパーリンク、および Windows Installer ヘルプでリンクをクリックすると、Windows Installer ヘルプの適切なトピックが開くようになりました。以前は何も起こらないか、エラーメッセージが表示されました。

1-JICN9, 1-GRB4X

複数のヘルプライブラリトピックを一度に印刷しようとする、スクリプト エラーメッセージが表示されました。この問題は修正されました。ヘルプライブラリにある複数のトピックを印刷するには [内容] タブを開きます。印刷するトピックを含むブックを右クリックして [印刷] を選択します。[トピックの印刷] ダイアログボックスが開き、印刷する内容を指定することができます。

[トップに戻る](#)

ヒントとコツ

.ax ファイルの COM および .NET プロパティの設定

.ax ファイルをプロジェクトに追加する際に .ax ファイル拡張子がポータブル実行可能 (PE) ファイルのひとつとしてリストされていない場合、COM および .NET 設定を .ax ファイルに設定することはできません。COM および .NET 設定を .ax ファイルに設定するには、まず .ax ファイル拡張子を PE ファイル拡張子のリストへ追加する必要があります。

1. [ツール] メニューで [オプション] をクリックします。[オプション] ダイアログボックスが開きます。
2. [ファイル拡張子] タブにある、[ポータブル実行可能ファイル拡張子] ボックスに AX ファイル拡張子を追加します。このフィールドのデフォルトエントリは次の通りです。
EXE、DLL、OCX、VXD、CHM、HLP、TLB
3. [OK] をクリックします。
4. [ファイル] ビューを開きます。
5. [機能] リストで .ax ファイルと関連付ける機能を選択します。
6. [ソースコンピュータのフォルダ] ウィンドウで、.ax ファイルが存在するディレクトリを選択します。
7. [ソースコンピュータのファイル] ウィンドウで、.ax ファイルをクリックして [インストール先コンピュータのフォルダ] ウィンドウ内の適切な場所へドラッグします。

この後ファイルの COM および .NET 設定を構成することができます。

1. [インストール先コンピュータのファイル] ウィンドウで、ファイルを右クリックして [プロパティ] を選択します。[プロパティ] ダイアログボックスが開きます。
2. [COM & .NET 設定] タブをクリックして、必要に応じてプロパティを構成します。

[トップに戻る](#)